

2学期終業式

皆さんおはようございます。早いもので、2学期が終わり、令和元年が終わろうとしています。先日、2019年の漢字が発表されましたが、どんな漢字か知っていますか。そう、「令」です。理由は言わずもがなです。皆さんは自分にとってのこの1年をどんな漢字で表しますか。

ところで、皆さんは「1万時間の法則」を知っていますか。知っている人は手を挙げてください。この法則は、アメリカのジャーナリスト、グラッドウェルが提唱して一躍有名になりました。世界で一流と言われた人達が、一流と言われるまでに要した時間を統計的に調べていくと、その多くの人に共通する時間、それが「1万時間」だったのです。例えば、モーツァルトが6歳で作曲を始めてから数々の名曲を生み出すようになるまでに要した時間。ビートルズがバンドを結成してからスターになるまでに要した時間。ビル・ゲイツが初めてコンピュータに触れてから世界に認められるようになるまでに要した時間。これらすべて「1万時間」です。数年前、「オートファジー」の研究でノーベル医学・生理学賞を受賞した大隅良典・東京工業大学栄誉教授は、少年時代の知的な興味が夢につながり、誰もやらないことをやろうという思いに駆られて酵母の液胞の研究を始め、ノーベル賞につながりました。本格的にこの研究を始めてから発見するまでに要した時間も、やはり「1万時間」だったそうです。

どうやら、一流と言われるまでには1万時間の努力を要するようですが、見方を変えれば、1万時間の努力で一流になれるのです。それなら努力してみようと思いませんか。ちなみに、この法則の提唱者であるグラッドウェルによれば、1万時間努力して報われなかった人はいないそうです。嬉しいことに、1万時間努力すれば、誰でも一流になれるのです。

さて、皆さんは、今、何に1万時間をかけていますか。あるいは、今後何に1万時間をかけますか。まだ見つかっていない人は、この冬休み、自分が1万時間をかける「モノ」を見つけてください。そして、すぐにでもそれを実践してください。ハリー・ポッターの翻訳者である松岡佑子さんは、「物事の成功の度合いは、かけた時間に比例する。何事も努力し、ぎりぎりまで人事を尽くした時に『魔法』がかかる」と言っています。松岡さんのこの言葉も、グラッドウェルと同じことを示唆したものだと思います。

3年生の多くは、いよいよ受験に挑みます。今は不安で一杯だと思いますが、松岡さんのこの言葉を信じて最後まで諦めず挫けず弱気にならず、自彊不息、弛まぬ努力を継続してください。1、2年生も、それぞれ2年後、1年後に向けて努力を惜しまないでください。

最後に、明日から冬休みに入りますが、明日の自分が今日の自分より成長した自分であり得るよう、充実した時間を過ごしてください。そして、生活のリズムを崩さないよう、しっかりと自分を律し、明高生としての自覚を持って過ごしてほしいと思います。

それでは、1月8日にこうして全員が元気に登校してくれること、令和2年が皆さんにとってすばらしい1年となることを祈念して、式辞とします。